

令和6年度分 事業所における自己評価総括表（障害児相談支援）

事業所名	子ども発達総合支援センター			
保護者評価 実施期間	令和 6年 12月 16日		～	令和 7年 3月 28日
保護者評価 有効回答数	対象者数	150人	回答者数	38人
職員評価 実施期間	令和 7年 2月 17日		～	令和 7年 2月 21日
職員評価 有効回答数	対象者数	5人	回答者数	5人
事業所向け自己評価 作成日	令和 7年 3月 31日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保健・福祉・教育機関等と連携が図りやすい	・市の公立施設であるため、健康センターやこども家庭センター、障がい福祉課、こども未来課、教育委員会等との連携体制がより整っている。	・こどもや保護者の生活の変化をキャッチしやすい関係機関等と連携しながら、途切れのない支援体制を維持していく。
2	機能が充実している	・通所支援、保育所等訪問支援、家族支援等を行う児童発達支援センターであり、療育事業と連携を図っている。 ・市の人的資源を活用している。	・こどもの特性に合った最適な支援が提供されるよう、引き続き連携を図っていく。 ・日本語でのコミュニケーションが難しい保護者等には、市の外国語通訳者を活用するなど、柔軟に対応していく。
3	信頼感・安心感が得やすい	・市の公的施設であり、安定した経営基盤のもと、誠実かつ公平に業務にあたるよう努めている。	・常に市民の目線に立ち、信頼されるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	市の公的施設であるため、柔軟な対応が難しい一面がある	・運営基準等以上に、住民に対する公共性、公平性がより求められる。 ・市の予算上の制約から、状況に応じた柔軟な人員配置が難しい。	・公立施設としての公平性を保ちながら、限られた人材で円滑な運営に努める。
2			
3			